

2022年1月31日

HOBIA NEWS No.379

- HOBIA 理事長 新年挨拶
- 2022 HOBIA 第131回冬期例会 案内
- バイオインダストリー団体全道会議について

● HOBIA 理事長 新年挨拶

皆様、明けましておめでとうございます。昨年は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響が人々の活動に大きな影響を与えた一年でした。

新型コロナウイルス感染症拡大抑制に大きな期待を持たれているものは、やはりワクチンであると思います。中でも mRNA を利用したワクチンは、それまで 10 年の期間を要すると言われていたワクチン開発を 1 年余りで成し遂げた画期的な技術と思います。その開発に大きな寄与を行った生化学者カリコー・カタリンさんは、今もっともノーベル賞受賞に近い科学者の一人と言われていいます。今回のワクチン開発のベースとなった基礎技術としての mRNA 利用に関する研究は 1980 年代から行われおり、mRNA を細胞内に入れるとタンパク質を作ることには分かっていたものの、導入した mRNA による炎症反応を克服することが困難で、臨床試験まで持っていくことが出来ませんでした。この mRNA に適切な化学修飾を行う事によって炎症反応を抑えることに成功したのが、カリコー・カタリン氏やドリュー・ワイズマン氏らの研究者で、2005 年に論文発表を行っています。この時点から数えると、実用化には、やはり 15 年余りの時間が必要であったものの、COVID-19 パンデミックに対しては、2019 年末の第 1 例目の感染者報告から 1 年余りで、COVID-19 に有効なワクチンを開発できたことは、やはり画期的な技術と言うことが出来ると思います。

今回の新型コロナウイルス感染症パンデミックでは、改めて気づかされた点が多くありました。

わが国では、優れた核酸研究は長く行われていたにもかかわらずワクチンなどの実装に至らず、ワクチンや治療薬の供給を海外に大きく依存せざるを得ない事態となり、世界的なワクチンの争奪戦に参入せざるを得なくなったこと。医療へのアクセスが容易で大多数の人が容易に高度な治療を受けることが出来るはずの我が国の保健医療制度においても”医療崩壊”を懸念する事態が起り得ること。所謂“水際対策”によって、感染症が国内に持ち込まれるリスクをゼロにする事はおそらく不可能であることなど、グローバル化の中での我が国の脆弱性が表面化しました。また国内においても、経済活動と感染予防策のバランスを取ることの難しさや、エッセンシャルワーカーの不足によって、安心・便利と信じていた日本の社会システムが、容易に危機を迎える可能性があることなどが明らかとなりました。

ワクチンや治療薬の登場で、COVID-19 パンデミックも収束するものと思いましたが、感染力の高い変異株の出現もあって世界的にはコロナ禍終息の見通しは現在も立っていません。

昨年の年頭にも申し上げました様に、今回のパンデミックからどのような教訓を得て、より強い

社会システムを構築するかが重要であり、その中で HOBIA にどのような貢献が可能であるのかを
考えることが必要であると思います。

最後に今年こそ皆様にとって、平穏な一年となります様祈念いたして、新年のあいさつとさ
せて頂きます。

特定非営利活動法人北海道バイオ産業振興協会
理事長 北野邦尋

● 2022 HOBIA 第 131 回冬期例会 案内

開催日：2022 年 2 月 2 日（水）14:00～17:00

会 場：北海道大学 学術交流会館 小講堂（札幌市北区北 8 条西 5 丁目）

参加費：無料

14:05～15:20【講演 1】

『産業技術総合研究所北海道センターのバイオ・一次産業関連研究の紹介』

国立研究開発法人産業技術総合研究所 北海道センター 所長 扇谷 悟 氏

<講演要旨>

産業技術総合研究所は経済産業省所管の国立研究開発法人で、北海道センターは 10 ヶ所の地
域センターの一つです。古くは北海道工業開発試験場として石炭関連の研究所でしたが、2001
年に産業技術総合研究所となってからはバイオを主体とした研究所と植物・微生物・生体由来物
質などを産業に利用するという観点で道内外企業との実用化に関する研究を行っています。また、
ここ 3 年ほどはオール産総研の技術を農林水産業に応用することを目指し、農工連携の調査・試
験なども行っています。このような産業技術総合研究所北海道センターの近年の取り組みにつ
いてご紹介します。

15:20～15:35 休憩

15:35～16:45【講演 2】『道総研食品加工研究センターの食関連研究の取り組み』

地方独立行政法人北海道立総合研究機構 食品加工研究センター

所長 柿本 雅史 氏

<講演要旨>

道総研は第 3 期中期計画の 2 年目を迎え、法人本部の組織改編を行い研究機能の強化を図り、
将来を見据えて何をすべきかを示し、様々な機関とともに社会実装を目指しています。そのなか
で、食品加工研究センター（食加研）は「成長力を持った力強い食関連産業の振興に貢献する」
をミッションとし、食関連の研究開発と技術支援に取り組んでいるところです。

食加研が中心となり取り組む食関連研究は、平成 29 年度より食加研、中央農業試験場、中央、
釧路、網走水産試験場と連携し、お互いの強みを活かした推進体制にて展開しています。本日は、
研究開発の柱としている「保存技術」、「発酵醸造技術」、「利活用技術」の開発について、今後の
展開、最近の成果等についてお話しします。

※ 参加お申込は、HOBIA web サイト [「メールお問い合わせフォーム」](#) から
『お名前・ご所属・お役職』をご入力、送信をお願い申し上げます。

● バイオインダストリー団体全道会議について

新型コロナウイルス対策に関わる緊急事態宣言も解除され、ウィズコロナが常態化されようとしております。一方、第5波の収束の理由はハッキリとせず、再度の6波を警戒せざるを得ない状態にもあります。度重なる蔓延防止措置や緊急事態宣言のために、北海道バイオ産業振興協会（HOBIA）IA がベースとしているノーステック財団や北大の施設が使えなくなり、幾度となく皆様にバイオ関連団体全道会議のお伺いをしていながら、開催が延び延びになってしまいましたことをお詫びいたします。

この度、HOBIA の企画運営委員会におきまして、バイオ関連団体全道会議を年度内に開催して、来年度の活動に向けたご意見の聴取も含めた運営とすることが決まり、お便りいたしました。

今年度の事業に関してはコロナ禍により運営に支障を来しており、多くの事業の中止やリモート開催を強いられました。全道会議の開催に関しても、まだまだ一堂に会する形は好ましくないのではないかとの意見が有り、最低でも Web 会議の併用を検討するように決定がなされました。については、各団体に会期及び開催方法の調整を諮りたいと思っております。

因みに、以下は一昨年 10 月 26 日（月）に開催された全道会議の議題です。

- (1) 経産局および道庁からの施策案内（北海道経済産業局、北海道）
- (2) 各地域の昨年度の活動報告及び今年度の活動計画
- (3) 地域バイオ育成講座の開催希望

Web 会議を併用するとして、ご参加は可能でしょうか？今年度の開催の時期は令和 4 年 1 月下旬以後を、利用予定のシステムは ZOOM の予定です。こちらに関しても、ご希望等がありましたら、お知らせいただきたいと思っております。

全道会議においては、議題にもありますように皆様には現在の活動状況をお知らせいただきたいと存じます。また、HOBIA と道庁、皆様の団体との協力で毎年開催しております地域バイオ育成講座に関しましても、開催の希望を伺いたいと思っております。なお、こちらに関しても Web セミナーの形を活用する可能性があります。

HOBIAのホームページ <http://www.hobia.jp>

NPO法人 北海道バイオ産業振興協会
札幌市北区北21条西12丁目コラボほっかいどう内